

# 2020年の大阪経済の動向

大阪産業経済リサーチ&デザインセンター 主任研究員 町田 光弘

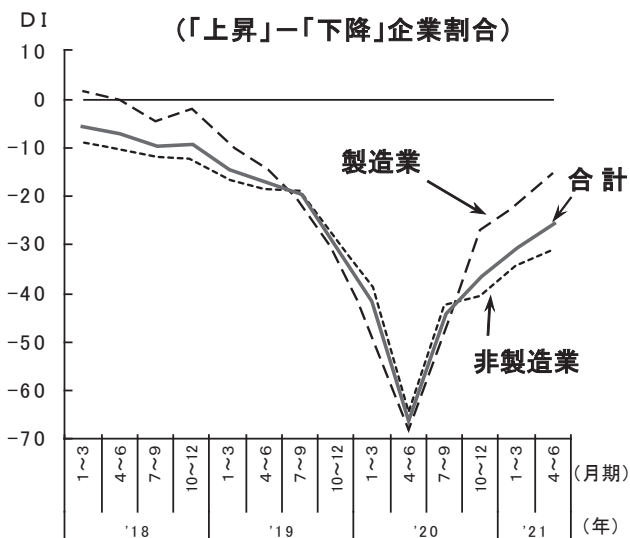
大阪産業経済リサーチ&デザインセンターでは、大阪経済の動向を毎月ウェブサイトに掲載するとともに、『おおさか経済の動き』として、四半期ごとにとりまとめ、年間でも前年の経済動向を振り返った冊子を発行しています。本稿では、2020年の大阪経済を振り返り、2021年の状況も踏まえ、ご報告します。

## 大阪経済は2020年4～6月期に急激に悪化し、その後、緩やかな持ち直し基調

2020年の大阪経済は、新型コロナウイルス感染症に伴うインバウンド需要の減少や中国からの商品の輸入途絶などにより、年明けから弱い動きとなりました。

府内企業の業況は、2019年初から低下傾向にありましたが、10～12月期には消費税率引上げもあり、低下幅が拡大しました（図表1）。2020年1～3月期にも低下が続き、1度目の緊急事態宣言下の4～6月期には急激に悪化しました。

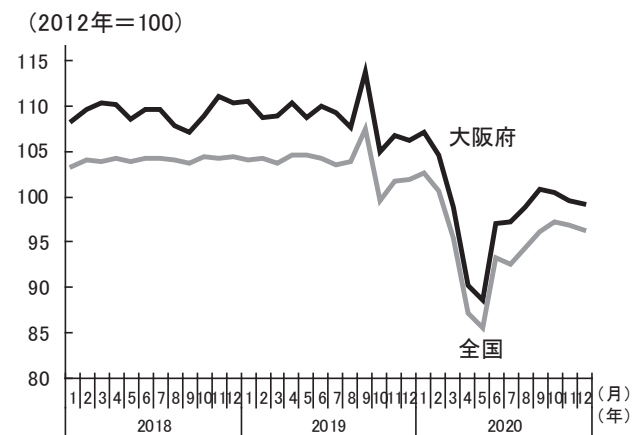
図表1 大阪府内企業の業況判断DIの推移



資料：大阪産業経済リサーチ&デザインセンター「大阪府景気観測調査」  
 (注) 前期比、季節調整済み。21年4～6月期は見通し。

企業の業況は、2020年後半から持ち直し基調となりました。ただし、消費動向の月別の経済データをみると、新型コロナ陽性者数の増減に伴い、景気回復は一進一退の動きであったことがわかります（図表2）。

図表2 消費総合指数の推移



資料：内閣府「地域別支出総合指数（RDEI）」

(注) 地域別支出総合指数は、域内支出の動向を迅速かつ総合的に把握するための指標として算出され、2012年=100とした相対的な水準を示す。都道府県は参考値。

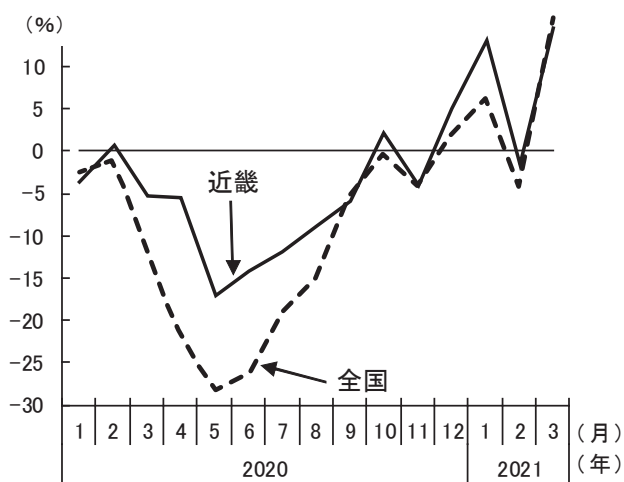
## 輸出、生産は改善

輸出は、新型コロナによるパンデミックから2020年3月以降、減少基調となり、5月に大きく落ち込みました（図表3）。ただし、近畿の落ち込みは、全国よりは軽微でした。これは、減少率

が大きかった自動車の輸出が全国で大きな割合を占めるのに対して、近畿での割合が小さいためです。6月以降は、中国向け輸出が増加に転じたことなどから、持ち直し傾向にあります。

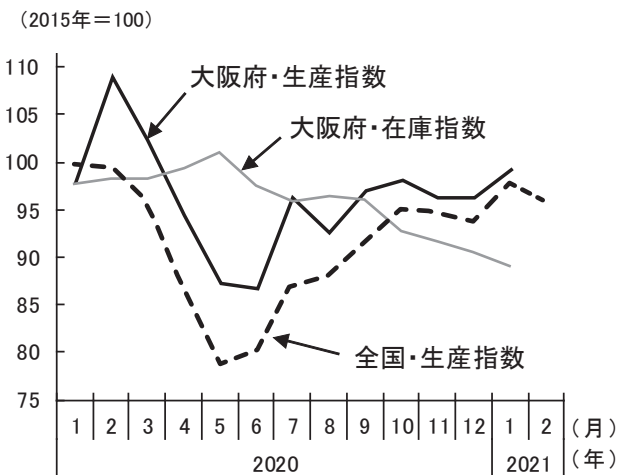
生産活動は、2020年前半は減退しましたが、年央を底に大阪府、全国ともに緩やかな持ち直し基調にあります(図表4)。在庫については、2020年5月まで増加しましたが、6月以降は減少基調に転じています。在庫調整が順調に進んでいることから、今後の生産増加が続くことが期待されます。

図表3 輸出額の対前年同月増減率



資料：大阪税関「貿易統計」  
(注) 2021年3月は速報値。

図表4 生産指数・在庫指数の推移

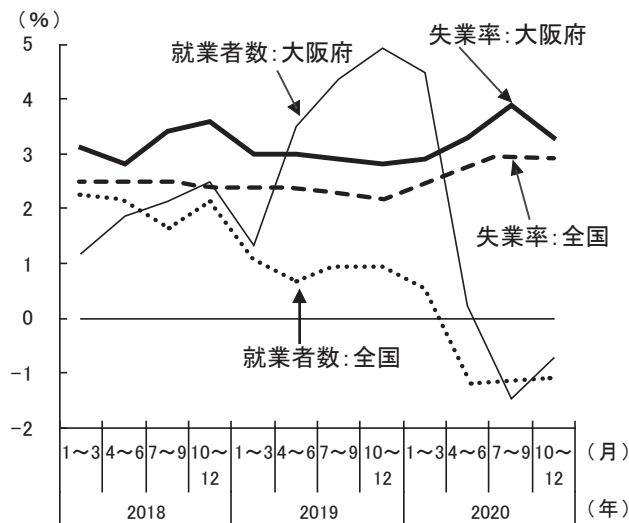


資料：大阪府「製造工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」  
(注) 季節調整済指数。大阪府は製造工業、全国は鉱工業。

### 雇用は悪化するも、年末に下げ止まり

雇用は、2020年1～3月期までは就業者数の高い増加率が続き、失業率も低い水準が保たれるなど、堅調に推移していました(図表5)。しかし、新型コロナの蔓延により、4～6月期に就業者数の増加率が鈍化し、7～9月期には減少に転じるとともに、失業率についても、4～6月期、7～9月期と上昇しました。10～12月期には、就業者の減少率、失業率の上昇率が小さくなり、雇用の悪化は、下げ止まりつつあります。

図表5 完全失業率と就業者数対前年同月増加率



資料：総務省「労働力調査」  
(注) 原数値。大阪府はモデル推計値。

### おわりに

2020年の大阪経済は、新型コロナによる外出関連の消費が低迷したことや、緊急事態宣言下で生産活動も滞ったことなどから、年前半に急激に悪化しました。大阪は、それまで活発であったインバウンド需要が消失したことなどにより、全国と比べても、関連産業への打撃が大きかったとみられます。景気は、年後半以降、持ち直しているものの、新型コロナの流行に応じて一進一退の動きを示しており、回復の足取りは重くなっています。

※本稿は、2021年4月中旬までの統計に基づきます。  
 なお、府内景気動向は、当センターのウェブサイトからご覧いただけます。  
 ●大阪産業経済リサーチ&デザインセンター  
<http://www.pref.osaka.jp/aid/sangyou/index.html>